

Market Flash

発表日: 2019年2月27日(水)

不安の自己実現は杞憂か

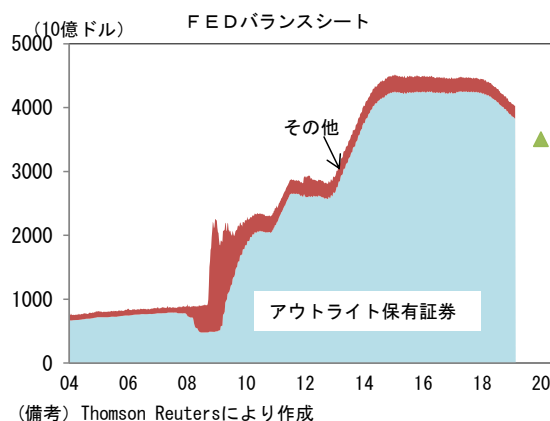
～米消費者信頼感は改善 FEDは辛抱～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4521)

- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は23000近傍で推移しよう。
- ・USD/JPYは米利上げ打ち止めが視野に入中、先行き12ヶ月で105へと下落しよう。
- ・日銀は現在のYCCを2020年春頃まで維持するだろう。
- ・FEDは2019年後半に利上げを停止する可能性があるだろう。

< #パウエル議長 #議会証言は無風 #CB消費者信頼感指数 >

- ・26日のパウエル議長の議会証言に目新しい材料はほとんどなく、金融市場は無風通過。次回の利上げ時期あるいはその可能性について重要なヒントを与えず、“Patient”な姿勢を維持することのみを確認。1月FOMC議事要旨で大きく取り扱われたバランスシート正常化計画についても明確な示唆はなく、総じて新味に乏しい内容。バランスシート縮小計画については、次回3月FOMC(3/19-20)を待つ必要がある。市場では3.5兆ドル程度(図中の▲部分)で縮小が停止されるとの見方が多い。



- ・2月CB消費者信頼感指数は急反発。ヘッドラインは131.4へと9.7pt改善。現況(170.2→173.5)が一段と改善し18年ぶり高水準を記録したほか、過去2ヶ月に異例の急落を示した期待(89.4→103.4)が大幅に反発。後者は年末の株価下落、政府機関の閉鎖等から大幅に低下し、消費の先行きに疑問を投げかけていただけに一安心。
- ・雇用統計の先行指標として注目される雇用判断は+34.3と今サイクルの最高を更新。最近是新規

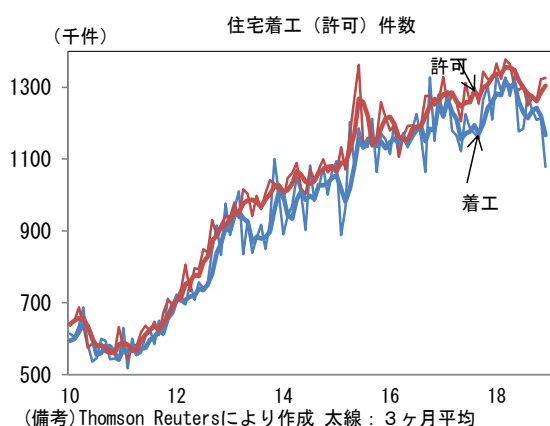
失業保険申請件数が増加基調にあるなど労働市場の変調を示唆するサインが出ていたが、今回の結果はそうした懸念を一部払拭した。

【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・日本株は欧米株高に追随して高寄り後、日経平均21500円近傍でもみ合い（9:30）。

【その他海外経済指標他】

- ・**12月米住宅着工件数**は前月比▲11.2%、107.8万件。前月比横ばいを見込んでいた市場予想を大幅に下回った。約3年ぶりの低水準で基調は明確に下方屈折。足もとで住宅ローンは低下基調にあるものの、建設コストが高止まりする下、住宅が一般消費者の手に届かない存在になっている可能性がある。



- ・英メイ首相はBREXIT交渉について、3月12日までに修正離脱案が承認されなかった場合、13日に合意なき離脱を選択するかを議会で採決し、（大方の予想どおり）合意なき離脱が否決されれば、その上で14日にEU離脱期限の延長を要請する是非を問うとの予定を示した。延長期限は3ヶ月、しかも延長要請は1回限りと主張。ひとまず3月29日の合意なき離脱の可能性は低下したと言える。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は概ね横ばい。主要3指数ともに0.1%程度の下落。米住宅着工が弱く、景気の先行きに疑問を投げかけた反面、CB消費者信頼感指数が強く、景気減速懸念を相殺。パウエル議長の議会証言は特段材料視されず。WTI原油は55.50ドル（▲0.02ドル）。
- ・前日のG10通貨はGBPの強さが目立った。上述のとおり3月29日の合意なき離脱の可能性が低下したことでGBPが急伸。欧州通貨も追随する形となりUSD売りの流れが作られると、USD/JPYも小幅ながら下落基調を辿った。
- ・前日の米10年金利は2.636%（▲2.7bp）で引け。方向感なくもみ合った後、7年債入札通過後に金利低下。欧州債市場（10年）はドイツ（0.118%、+1.0bp）、フランスが小幅に金利上昇。イタリア、スペインが金利低下。前週末にフィッチがイタリア国債の格付けを据え置いたことで、それまで手控えられていた買いが入っている。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。